

**フジモリ産業(株) コンクリート構造物向け養生材
「保水パックパネル工法」を開発
保水・保温養生一体型をコンクリートに直接貼付する画期的な養生工法**

フジモリ産業(株) (本社：東京都品川区、代表取締役会長兼社長：藤森 行彦) は、スリーエムジャパン(株)の保水技術を用いたコンクリート構造物向け養生材の新商品を用いた「保水パックパネル工法」を開発しました。

コンクリート養生技術は、型枠などに打設したコンクリートが硬化して構造材料としての所要の性能を発現するまでの間、適切な温度と湿度が維持されるように、また、粉塵や衝撃といった有害な作用が及ばないようにコンクリートの表面を保護する技術です。初期の乾燥収縮を抑制し、外気温の影響を最小限に抑える事でひび割れ抑制が図れます。これにより将来的に水分、二酸化炭素、塩化物イオンといった様々な外的な劣化因子の浸入を阻止できるため、鉄筋腐食や中性化の抑止に繋がります。従って、高品質で長期耐久性を有するコンクリート構造物を構築するためには、適切な養生をしっかりと行う必要性があります。

「保水パックパネル工法」は、保温と保水という2つの性能を有し、コンクリート表面の乾燥と温度差を長期間防げる養生技術です。製品は、保温層(特殊ポレオレフィン発泡樹脂)の両面に粘着タイプの保水テープを積層したマット形状(1m×1m)で、総重量約0.5kg/m²と軽量で取り扱いに優れています。

施工方法は、型枠脱型直後に保水テープ部を表面に密着させるだけの施工で、所定の養生期間終了後に剥がして完了となります。一般的な養生方法と異なり養生中に給水および散水を必要としません。また、両面に保水テープ層があるため、2回まで使用が可能な構成です。

これまでは、保水養生テープに代表される保水養生材は、寒暖差の大きな使用環境条件下では保温を別途施す必要がありました。弊社はコンクリート用の保温マットを長年販売しており、そこで培った断熱技術とスリーエムジャパン(株)の保水技術を一体化させる事で、保温と保水という2つの性能を持つ製品を生み出す事ができました。今回採用した保水テープは高粘着だが剥がし時に糊残りしにくい配合とし、あらゆる施工面に最長三ヶ月間残置できます。

以下に開発品の特長を示します。

- ① 保水・保温が一体型となっております。
- ② 保温層は断熱材を使用しており、寒暖差の大きな地域に最適です。
- ③ 施工方法はコンクリート表面に保水テープ部を密着させるだけのため、あらゆる施工面に適応できます。
- ④ 最長三ヶ月間残置できます。
- ⑤ 保温層の両面に保水テープ層を設けており、2回まで使用が可能です。

対象市場は、土木構造物全般を想定しているが、特に鉛直面・裏面・曲面といった養生難易度が高い施工箇所では性能が発揮できると考えており、橋梁上部・下部、トンネル、ダム工事への適用を図っていきます。

お問い合わせ先：

フジモリ産業(株) 建材事業部土木営業統括部 登川貴仁 [TEL:03-5789-2205](tel:03-5789-2205)



